QScan 2023.3.0
Release Notes

ビジュアル・グラフィックス株式会社

新機能 2
　データベースの最適化 2
　リポジトリ内にフォルダーを作成する機能（プロジェクト設定「入力/出力」） 2
　ログイン画面の変更 3
バグフィックスおよび改善点 3
既知の問題・制限事項 4

お問い合わせ：
ビジュアル・グラフィックス株式会社
テクニカルサポート部
電話： 03-6277-1895 （サポート直通）
E-mail：qscan@vgi.co.jp

Visual Graphics Inc.

新機能

データベースの最適化

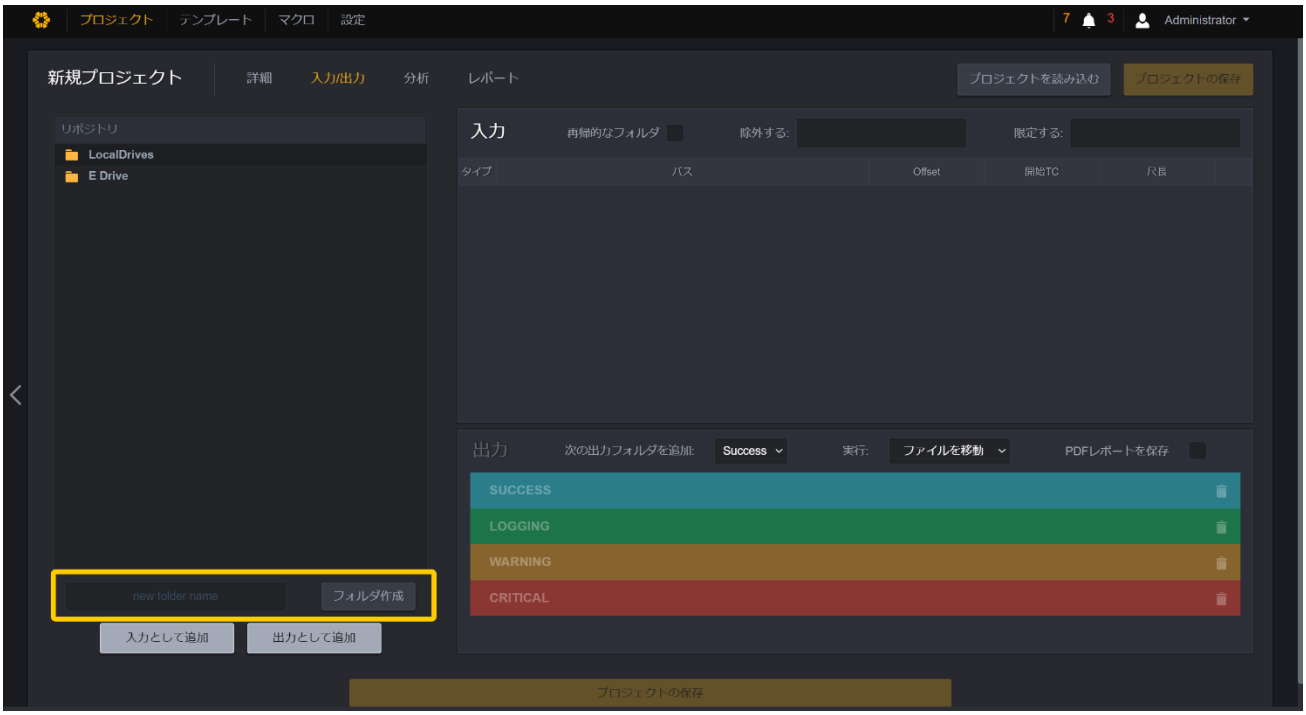
設定 ＞ システム において、データベースの最適化が追加されました。「今すぐ最適化する」をクリックすると実行されます。長期間の運用や大量の分析によりデータベース（Database.db）のサイズが大きくなっている場合、データベース内の削除済みの箇所を最適化することでサイズの減少が期待されます。

※ システムがビジー状態でない（分析等が実行中でない）タイミングでの使用をお勧めします

リポジトリ内にフォルダーを作成する機能（プロジェクト設定「入力/出力」）

プロジェクト設定の「入力/出力」で、リポジトリ内に新規フォルダーを作成できるようになりました。

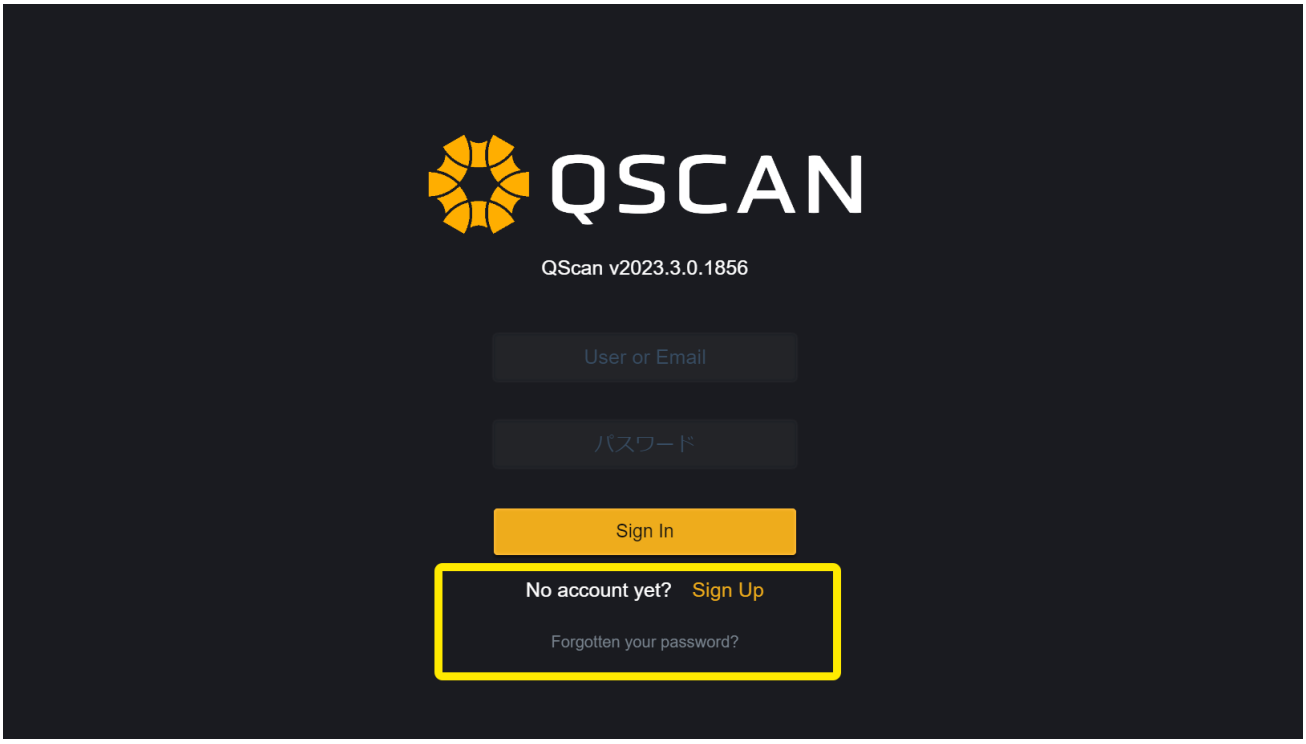
フォルダーを作成したいリポジトリへ移動し、テキストフィールドにフォルダー名を入力してから「フォルダ作成」をクリックします。



ログイン画面の変更

ログイン画面に LWKS アカウントのサインアップ機能が追加されました。ただし、この機能は、永久ライセンスを保有する既存ユーザーには関連しません。したがって、これまでと変わらず QScan アプリケーションのユーザー（admin 等）を使用してログインを行ってください。

※ ログイン画面で提供されているサインアップ機能を使用して LWKS アカウントを作成しないようにご注意ください。ここでアカウントを作成すると、ライセンスの参照先が変更され認証が外れてしまう可能性があります。



バグフィックスおよび改善点

- システムのクリーンアップ機能において、ウォッチフォルダーがプロジェクトへの入力として設定された場合、システムのクリーンアップの実行時にウォッチフォルダー情報も削除され、ウォッチフォルダー内の新しいファイルが自動的に分析されない問題の修正。本バージョンではウォッチフォルダー情報は削除されず、新しいファイルが自動的に分析されます。
- 休止状態からの回復後、PDF の生成が正しく動作し続けずに「PDF レポートを取得できませんでした。再作成します」というメッセージが表示される問題の修正（スリープと再起動に関しては以前のバージョンで解決済み）
- ProRes422HQ 等、一部のフォーマットで静止画検出が機能しない問題の修正
- 静止画検出でプロジェクトに複数の静止画が設定されている場合、画像番号（指定順序）によってイベントが検出されない問題の修正
- 閾値の区間設定とイベントの尺長の組み合わせを使用するとイベントが表示されない問題の修正
- 静止画検出の画像を指定する際に、サポートしている画像フォーマットが UI に表示されるように改善

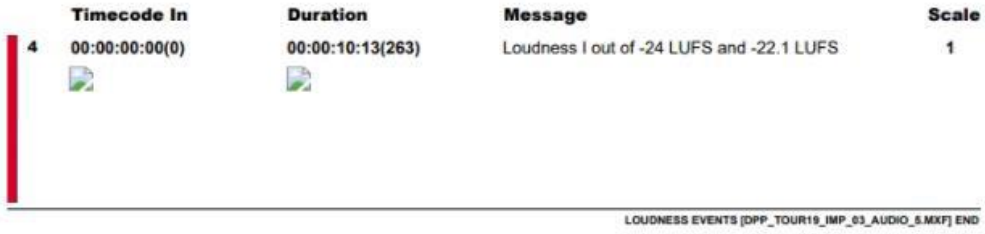
- マクロのイベントが HTML レポートから削除できない問題の修正
- HDR のフォーマットチェックが PDF レポートに表示されない問題の修正（Gamut Check、Mastering Display Color Primaries 等）
- ライセンスの無効化の際にディアクティベーションファイルが生成されない問題の修正
- プロジェクトでノードとユーザーを選択する際の UI 動作の改善。「すべてのノードを使用」および「すべてのユーザーを許可」にチェックが入っている状態では個別のノードやユーザーの選択が行えないようになりました。
- イベントがタイムコード順で表示されない問題の修正
- /api-1/qc/jobs/{id}/files/{file_id}/events をコールすると一部のフォーマットチェックのイベントが XML、JSON レポート、または API 応答で重複して表示される問題の修正

既知の問題・制限事項

- プロジェクト設定の「入力/出力」でファイルの移動が設定され、かつ「PDF レポートを保存」の チェックボックスを有効にしている場合、PDF がファイルと同じ場所にコピーされない。（次のリリース 2023.3.1 で修正予定）
- PDF レポートのステータスに「レポート」と表示される
- ラウドネス分析オフセットの値が設定済みの状態でテンプレートを結合でロードしてプロジェクトを保存すると、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルト（空欄）に戻る（回避方法：プロジェクトの保存後にラウドネスオフセットの値を改めて入力し、プロジェクトを保存する）
- HTML レポートにおいてファイル属性（フレームレートおよびアスペクト比）の表示が不適切である
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾部分が表示されない（回避方法：タイムラインをズーム表示する）
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度などを変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- システムのクリーンアップが一時停止中のプロジェクト内に適用されない
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC にファイルの先頭フレームの TC が表示される
- 音声の閾値の区間設定において from tail と duration の組み合わせで指定するとイベントの開始 TC と尺長が正しくない
- 「設定」ページのシステムのクリーンアップ機能において、日数指定の削除時に表示されるダイアログボックスが自動的に閉じない。YES または NO をクリック後にダイアログの右上の X をクリックして閉じてください。
- ウォッチフォルダーが入力として指定されている場合、システムのクリーンアップの削除後にもイベントカウントが残る
- PDF レポートにおいて、一部のフォーマットチェックで情報が表示されない問題が存在する。
  注）メタデータ内で情報が見つからないことが原因で一部が表示されないことがあります
  - クローズドキャプションのフォーマットチェックが、フォーマットチェック内に表示されず、閾値のエリアにイベントが表示されないことがある（情報がメタデータに含まれておらず、追加の処理が必要になるため）※PDF レポートのフォーマット一覧でクローズドキャプション「ARIB STD-B37」が表示されない件がこれに該当します。

- 「GOP」が閾値に従ってハイライト表示されない

- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（これらの不一致は主にデッドピクセルの検出に関係しており、現在のアルゴリズムが計算に大量のフレームを必要とすることが原因）
- エラーメッセージが長すぎる場合、PDF レポートの IMF セクションの書式が崩れることがある
- IMF パッケージの PDF レポートにおいて、音声イベントのサムネイルは表示されません。（音声のみを含むファイルであり、映像のサムネイルを伴わないため）



- ラウドネス分析オフセットを指定すると、ラウドネスイベントの開始 TC が 1 フレーム前倒しで表示される
- 部分分析の使用時、分析された尺長よりもイベントの継続時間が長い場合、レポートにおいてイベントの尺長が 1 フレーム長く表示される
- 整数でないフレームレートのファイルで、音声イベントの尺長のカウントが ±1 フレームの誤差が発生する場合がある
- 部分分析において、ドロップフレーム TC のファイルを分析する場合、イベントの継続時間に不一致が発生する可能性があります（+1 フレーム）。これは主にドロップフレームが発生する尺長を使用する場合に見られます。つまり、1 分、2 分、3 分といった尺長を使用する場合には、00:01:00;02、00:02:00;02、00:03:00;02 として表現する必要があります。

以前のバージョンの QScan(2021.x 以前)で分析されたファイルを操作する場合、一部の機能が期待どおりに動作しない場合があります。すべての機能が正しく動作するように、ファイルを再分析することをお勧めします。特にタイムコードに関連するもの(TC へのジャンプ、目視イベント、タイムラインの TC 表示など)が影響を受けます。これは、データベースで新しい TC の処理方法が使用されることによるものです。